

この痛みって 何のせい…?

かつて
水痘だった
人達へ

いつも／あなたのそばに

带状疱疹

季節の変わり目などに発症しやすい带状疱疹。50代以上で発症するケースが多いものの、近年は20〜40代にも増えており、働き盛り世代が1年を通して気をつけたい病気となっています。

YES

带状疱疹



ウイルスにより神経で炎症
が起きているため、市販の
かゆみ止めは効きません！

はやめに
医療機関へ

GO

NO

虫刺され



NO

あせも



いってしまうと、3か月〜年単位で痛みが続く、带状疱疹後神経痛に移行することもあります。この後遺症は50歳以上の約2割でみられ、年齢が高いほどリスクは高まります。

带状疱疹は体のどの部位でも起こりえますが、胸部や背中が多くみられ、その大半が体の片側のみに発症します。はじめは皮膚にピリピリやチクチクとした痛みを感じ、それから数日ほどで赤いぽつぽつした皮疹や水ぶくれが現れ、神経に沿って帯状に広がります。痛みは個人差がありますが、夜も寝られないほど強く感じる場合もあります。さらに重症化して神経が傷つ

子供がかかることの多い水ぼうそう（水痘）は、「水痘・带状疱疹ウイルス」によって引き起こされる感染症です。水ぼうそうにかかると、症状が治まった後もウイルスは体内の神経節という場所に潜伏しつづけます。それから数十年を経て、加齢などで免疫機能が低下すると、ウイルスが再び活性化して带状疱疹を発症します。日本人の約9割がこのウイルスに感染しており、50代から患者数が急増します。ただし、20〜40代でもストレスや疲労などをきっかけに発症することがあるので、注意が必要です。

体に潜むウイルスは歳をとるほど活発に

\\ 大切なのは //

早期発見・早期治療

それから

ワクチン

带状疱疹でなにより重要なのは早期発見・早期治療です。発症の直後はあせもや虫刺され、湿布によるかぶれなどと勘違いされ、治療が遅れてしまうことも多いようです。痛みを伴う発疹があれば带状疱疹を疑い、早めに医療機関を受診してください。きちんと治療すれば水ぶくれは2週間程度でかさぶたとなり、回復するにつれ痛みも治まることが大半です。

带状疱疹を予防するには、ストレスや疲れをためないなど日頃からの健康管理で免疫機能を落とさないことが大切です。特に高齢者や、糖尿病などの持病がある場合は、ワクチンによる予防接種が効果的です。発症を完全に抑えることはできませんが、発症しても重症化を防ぎ後遺症の予防につながります。50歳以降ではワクチン接種が認められており、推奨されています。

- 年度内に65歳になる方などを対象に定期接種が行われており、対象の方は公費で安く接種できます。
- 50歳以上で定期接種対象外の方は、任意接種になります。費用は自己負担ですが、費用の助成を行っている自治体もあります。